

平成28年度第2回青梅市美術館運営委員会会議録

平成29年2月13日(月)
美術館第1研修室
会議時間 14:00~15:00
出席者 委員6名、教育長
教育部長、事務局3名

- 1 開会
- 2 教育長あいさつ
- 3 委員長あいさつ
- 4 議 題 事務局から説明
平成29年度青梅市立美術館事業計画(案)について 決定
- 5 報告事項
 - (1) 新収蔵作品について
事務局から説明 了承
 - (2) 特別展「懐かしの映画ポスター展」の開催結果について
事務局から説明 了承
 - (3) ビエンナーレOME2017の選考結果について
事務局から説明 了承

[主な質疑・応答・意見(議題、報告事項について)]

○平成29年度青梅市立美術館事業計画(案)について

(委員) 来年度の展覧会で、館蔵品で3回、特別展では作品を借りで行うとのこと。昨年度は、湯河原から作品を借りて展覧会を実施したが、予算の関係もあるだろうが、有名な作品を借りて特別展を開催できないか。

(事務局) 特別展のあり方は、他館と交流を深めて美術館のコレクションをお借りして特別展を実施している場合が多い。今回、横須賀美術館所蔵のコレクションをお借りして特別展を実施する。過去には、青梅市にゆかりのある内容で特別展を行うという試みとして、吉川英治の平家物語の挿絵を描いた杉本健吉さんの作

品を杉本美術館からお借りして青梅市民の皆さんに足を運んでいただいた。

(委員) 高柳裕展について、展覧会とは別に、高柳氏にお越しいただくことができれば、明星大学青梅キャンパスの版画工房が空いているので、市民の方とか、小学生などを対象に版画の講座等を開き、青梅の社会教育に明星大学が貢献できればと考えるがいかがか。

(事務局) 高柳氏と電話で数回打ち合わせをしている中で、ご本人から市民ギャラリーを使って「版画イベント」はどうかとご提案いただいている。ほかにも、講演会などについても前向きに検討してくださっている。大学のような本格的な設備を使っただけの講座等もあり得るので、高柳氏に情報提供をしていきたい。

(委員) 特別展「谷内六郎作品展」について、昭和で育った者にとって非常に懐かしい思いがある。例えば、青梅線沿線に置かれるJRのチラシに特別展の周知を入れ、谷内六郎さんの昭和レトロをPRすれば美術館に足を運んでくれるのではないかと、この思いがある。美術館だけでなくいろいろな施設や機関とタイアップしてPRしたらどうか。

(事務局) JRの宣伝力は承知しており、様々な青梅のイベント等を取り上げていただいている。時期等マッチングさせることができれば効果があると思う。今後検討していきたい。

(委員) 企画展について、小・中学生向け実技講座の記載があるが、内容について伺いたい。

(委員) 具体的に決まっていはいないが子供向けのイベントを実施したいと考えている。過去には、明星大学の染色の前田先生に来ていただいて携帯電話のケースを作ったり、布のバックに染色をしたりなどした。地元の作家活動されている方をお願いして、うちわを作ったり、うちわに絵を描いたりしたこともあった。なるべく展覧会に即した内容や作家で実施したほうがふさわしいと考えているが、当館の収蔵品は子供向けの作品がないので、実技講座の内容は今後詰めていきたい。

○特別展「懐かしの映画ポスター展」の開催結果について

- (委員) 美術館では、採算性というものをあまり考えてこなかったように思うが、ここへきて企業美術館にしても採算性を重視するようになってきた。今後実施する特別展を、採算性の観点から分析してこの展覧会が良かったかどうかという評価をされたらどうかと思うがいかがか。
- (事務局) 美術館では、市民の皆様にご共感を得ていただき、足を運んでいただける魅力的な展覧会をするという視点に立って展覧会の事業を行っている。美術館は、10年以上前から館蔵品を使って楽しんでいただけるような企画を実施している。評価としては、観覧者数その目安になるが、一時期は年間で2万人を超えるような来場者数を維持していた状況もあった。
- (委員) 市の財政から見た美術館の位置付けはよく承知していないが、美術館予算は教育費の中のごく一部だと思う。これだけの経費を使って入館料がどれほどあるのか、作品をどこかに貸し出して貸出料の収入がどれほどあるのか、一年間を通じた収支の決算は知らされているのか。
- (事務局) 毎年、予算をどれほど使ったのかを示す決算を出し、9月に市議会で承認をいただいた後、広報紙等で広く市民の皆さんに公表している。しかしながら、市の場合は民間と違って経営的な視点に立った利益を追求するのではなく、税金をもとに組んだ予算を適正に執行するかが大前提であり、どういう使い方をしたかを主眼とする報告となっている。
- (委員) 仕事柄全国の200近くの美術館を見てきたが、それぞれ特徴がある。1980年代は全国的に公立美術館が多数建設されたが、収蔵作品に魅力的な作品が少ないと感じている。地方にある小さくても魅力的な美術館は、総じて個人のコレクションを展示する目的で作られたもので、コレクションの特徴がはっきりしている。市の場合、すぐれた作品を市民に還元するということだが、他館との作品の貸し借りは魅力的なものをお願いしたいといつも思っているがいかがか。
- (事務局) 文化事業に投入できる予算は限られているが、引き続き青梅市立美術館として市民に還元できるようにしていきたい。

○ビエンナーレOME2017の選考結果について

(委員) 入賞した作品の展示数をお聞きしたい。

(事務局) 30点すべて展示する。

(委員) 美術館予算の中で、作品購入費は年間いくらか。

(事務局) 美術作品取得基金という基金を設けている。基金の金額は3000万円であるが、基金で購入した作品が2200万円相当あり、現在、現金で残っているのが800万円である。

6 その他

次回委員会の開催予定 平成29年4月末から5月初旬にかけて委員の都合を聞き日程を通知する。

7 閉会